

第1章 メンタルヘルスと福祉教育

第1節 本課題設定の意義

第2節 メンタルヘルスを取りまく今日的状況

第3節 引き継がれた問題意識と新たな研究

第4節 精神障害者との直接的な接触機会を活用した障害理解

1. 精神障害者との直接的な交流体験が大学生にもたらす変容
2. 精神障害（者）への理解の変容を促す工夫

第5節 「語り」から「対話」への転換に向けた新たな試みへの注目

1. 福祉教育での「語り」の位置づけ
2. 「語り」のもつ可能性と限界
3. LSPと教材を活用した福祉教育プログラム
4. 相互理解をサポートするLSPというメソッド

第6節 本研究課題の意義と今後の展望

第2章 “いのちの持続性”と福祉教育・ボランティア学習

第1節 ESDとの化学反応への期待

第2節 実践と学びを問い直す〈いのちの持続性〉仮説とその検証

第3節 SDGsの登場

第4節 SDGsの問題点

第5節 SDGsを組みなおす福祉教育・ボランティア学習の可能性

第6節 変革性・運動性の基礎となる抵抗・批判、学習・対話・省察

第7節 今後の研究・実践の課題

1. SDに向き合う学習論・主体論
2. 多様な人々・学習・実践・社会課題が交差するプラットフォーム
3. マクロな社会変革に向けた実践と統合的な理論枠組みの探究

第3章 “サロン”の可能性を探る福祉教育・ボランティア学習

第1節 課題別研究3年間の概要と新たな研究課題

1. 研究の概要 目的および成果
2. 新たな研究課題

第2節 校内居場所という中高生サードプレイスの可能性

1. 教育と福祉をつなぐ校内居場所
2. 校内居場所の発端は校内ソーシャルワーク
3. サードプレイスと支援の関係性
4. 校内居場所の目指すもの
5. 校内居場所の今後～ケアの視点から～

第3節 こどもの居場所から捉えるサードプレイスの可能性

1. サードプレイスとしての地域のこどもの居場所の検討に向けて
2. 地域におけるこどものサードプレイスに対するまなざしの変化
3. 地域におけるこどものサードプレイスの実際
4. 地域におけるこどものサードプレイスのもつ可能性

第4章 高大連携を問う福祉教育の理念と実践

第1節 高校福祉教育における高大連携・高大接続

第2節 高校と大学における福祉教育のレリバンズ

1. 福祉系高校のレリバンズ
2. 高大接続福祉教育のレリバンズ

第3節 福祉マインドを育てる高校福祉教育実践

1. 新学習指導要領のもとでの実践
2. グローバル介護人材
3. 福祉教育現場へのICTの導入
4. 当事者参加の授業
5. 連携する小・中・高・特支学校への拡張

第4節 重層的連携の結節点となる高校福祉教育と「福祉」 教員養成

1. 「福祉」教員養成の持続に向けた重層的連携への展望
2. 「福祉」教員養成に求められる高大連携

第5章 シニア世代と共にコミュニティを拓く

第1節 新たな社会参加の開発とコミュニティエンパワメント

1. 高齢者（シニア）研究の到達点
2. 後期高齢期における「プロダクティブ・エイジング」概念の再検討
3. ミドル世代のライフスタイルの変容と地域参加の新たな形

第2節 無理なく課題解決に参加できるシステムの構築

1. 地縁型の活動の忌避とプロジェクト型活動の興隆
2. 楽しさベースの活動への着地

第3節 シニアと子どもの多世代交流を学生が紡ぎコミュニティを拓く

1. シニアと子どもを学生が地域でつなぐボランティア体験プログラム
2. 「地域ボランティア活動」事業
3. 受動的から能動的な体験へ段階的に学びを発展させ実践につなぐ
4. プラットフォーム機能を活かした多世代交流体験が地域活動につながる
5. コミュニティを拓くための仕組みづくりに向けて

第4節 今後の研究の展望

第6章 食でつながるコミュニティ

第1節 課題別研究の概要

1. 「食でつながるコミュニティ」の研究がめざしたこと
2. 分析対象事例と研究からの示唆

第2節 「子ども村：中高生ホッとステーション」の双方向型居場所

1. 本事例を取り上げる理由とその背景
2. 創設10周年を迎えた現在の活動
3. 双方向型居場所の価値

第3節 「食でつながるコミュニティ」の価値の問い直し

1. 子ども中心の社会的排除
2. ケイパビリティ・アプローチによる実践現場の説明
3. 実践事例：「ふぁみりー基地」
4. 「経験」のプロセスと質

第4節 総括

第7章 合理的配慮が生み出す福祉教育・ボランティア学習

第1節 合理的配慮と福祉教育・ボランティア学習

1. 事後的個別対応において生じるコミュニケーション
2. 求められる「建設的な対話による相互理解」
3. 生活世界における合理的配慮へのシフト

第2節 市民性と合理的配慮～合理的配慮との「対峙」～

1. 合理的配慮という「ルール」
2. 構築される大変／不信感
3. 出会って話すという「闘い（ふれあい）」
4. 建設的対話をめざして

第3節 対話を生み出すために、合理的配慮はいかにあるべきか

1. 対話の前の合理的配慮と合理的配慮の前の対話
2. 対話が生み出す合理的配慮の先

第4節 合理的配慮の提供のための「深い対話」が拓く世界

1. 障害の社会モデルの実践としての合理的配慮
2. 合理的配慮の提供のために不可欠な過程としての3つの対話
3. 合理的配慮の提供のための「深い対話」と福祉教育・ボランティア学習

第8章 共生社会を創造するサービス・ラーニング

第1節 学習者と社会の関係性を組みかえるサービス・ラーニング

1. 本課題をめぐる研究の動向
2. 課題別研究の概要

3. 教育施策と制度化される SL

第2節 サービス・ラーニングの視座とカリキュラム開発の方法

1. 学校教育におけるサービス・ラーニングの位置
2. 初等・中等教育におけるサービス・ラーニングの実態
3. サービス・ラーニングの視座とカリキュラム開発

第3節 サービス・ラーニングに関わる人のパートナーシップを育てる

1. 大学におけるサービス・ラーニングとパートナーシップ
2. パートナーシップの構築を支える地域連携専門職
3. SLの取り組みを実質化させていくために

第4節 世代や地域をつなぐサービス・ラーニングの広がりに向けて

第9章 「介護等体験」の教員養成における現状と学びとしての課題

第1節 「介護等体験事業」に関わる本学会の取り組みと研究の動向

1. 制度の概要
2. 本学会の「介護等体験事業」に関する研究
3. 「介護等体験事業」に関する研究の動向と課題

第2節 「介護等体験事業」の現状と今後の課題

1. コロナ禍での代替措置と省令改正による対象施設の拡大
2. 「介護等体験事業」の実施状況
3. これからの「介護等体験事業」の課題

第3節 大学教員から見た「介護等体験事業」の意義と課題

1. 大学における介護等体験の位置づけについて
2. 教員養成の目的と介護等体験～意義と課題～

第4節 介護等体験～福祉教育としての可能性～

第10章 多文化共生とボランティア

第1節 課題別研究の成果と残された課題

1. 「多文化共生とボランティア」課題別研究の目的と得られた知見
2. 課題別研究で残された課題

第2節 非営利・協同組織の学びによる多文化共生社会の可能性

1. 多文化主義と市民権
2. 多文化共生と非営利・協同組織
3. 非営利・協同組織による学びと多文化共生社会

第3節 当事者性の邂逅の意義と実践への応用化

1. コンヴィヴィアルな空間に生まれる当事者性の邂逅
2. 「当事者性の邂逅」と学習論の関係
3. 異質な他者への関心が育まれる場づくり

第4節 学習者の異文化への越境をサポートする文化媒介者の役割とその意義

1. 異文化への越境をサポートする「文化媒介者」の課題と展望
2. 異文化への越境をサポートする「文化媒介者」の役割とその意義
3. 文化媒介者が介在した多文化教育プログラムの開発に向けて

第5節 研究の総括と今後の課題

1. 検討された新たな知見
2. 総括的考察と今後の課題